

「大規模土砂災害シンポジウム」 ～九州地方における 深層崩壊に備える～

平成25年 **2月23日(土)** 13:30～17:00(開場13:00)

ホテル熊本テルサ テルサホール



針原川土石流災害

日時：平成9年7月10日
場所：鹿児島県出水市境町針原地区



耳川天然ダム災害

日時：平成17年9月6日
場所：宮崎県東臼杵郡美郷町野々尾

「大規模土砂災害シンポジウム」

～九州地方における深層崩壊に備える～

開催目的

近年、集中豪雨が発生する頻度が高くなっているなどの気象状況の変化を受け、各地で水害や土砂災害が頻発し大規模化する傾向にあります。

平成23年には、台風12号の来襲により紀伊半島において大規模な土砂災害が同時多発的に発生しました。特に顕著だったのが「深層崩壊」（山の岩盤深くから多くの土砂が崩れる現象）による大規模な土砂災害であり、土石流や河道閉塞で多くの人命や家屋が失われ、下流の集落が長期の避難生活を余儀なくさせられるなど、深刻な被害が発生しました。

我々が暮らす九州地方でも、九州の中央部にそびえる「九州山地」は紀伊半島と極めて類似した地形・地質であり、これまでも「深層崩壊」による災害が発生した実績を持っています。

また、九州地方は、崩壊しやすい火山性の地質も多く、近年では平成9年の鹿児島県出水市針原地区や平成15年7月熊本県水俣市宝川内地区で「深層崩壊」による土石流が多くの人命や家屋に被害を及ぼしました。

今回のシンポジウムにおいては、基調講演やパネルディスカッションを通じて、このような大規模な土砂災害はどのようなメカニズムで発生し、備えておくべきことは何なのかを考えていきます。

プログラム

- 1) オープニング (13:30 ~ 13:35)
映像放映
- 2) あいさつ (13:35 ~ 13:45)
・熊本大学大学院 自然科学研究科 減災型社会システム実践研究教育センター長 **岡田 憲夫**
・国土交通省九州地方整備局河川部長 **植田 剛史**
- 3) 基調講演
・平成23年台風12号による紀伊半島大災害について (13:45 ~ 14:25)
奈良県吉野郡十津川村長 **更谷 慈禧**
・九州地方における深層崩壊の実態と特徴について (14:25 ~ 15:05)
鹿児島大学農学部教授 鹿児島大学地域防災教育研究センター調査研究部門長(兼任) **地頭蘭 隆**
- 4) パネルディスカッション (15:20 ~ 17:00)

九州地方における深層崩壊に備える

パネリスト

奈良県吉野郡十津川村長	更谷 慈禧
鹿児島県出水市長	渋谷 俊彦
鹿児島大学農学部教授 鹿児島大学地域防災教育研究センター調査研究部門長(兼任)	地頭蘭 隆
熊本県土木部長	船原 幸信
国土交通省九州地方整備局河川部長	植田 剛史

コーディネーター

熊本大学大学院自然科学研究科教授	北園 芳人
------------------	--------------

- 5) 閉会 (17:00)
熊本県土木部長 **船原 幸信**

プロフィール



さらたに よしき
更谷 慈禧 奈良県吉野郡十津川村長

奈良県十津川村生まれ
昭和44年 ボンタイル株式会社勤務 昭和47年 家業の林業に従事
昭和56年～昭和63年 十津川木材協同組合副組合長 兼榎原出張所長
昭和61年 4月～昭和62年 3月 五條青年会議所理事長
平成2年12月～平成5年5月 十津川村教育委員
平成7年11月～平成13年6月 十津川村森林組合副組合長 組合長理事
平成5年5月～平成13年4月 十津川村助役 平成13年4月～ 十津川村長

平成23年9月の台風12号(紀伊半島大水害)で、甚大な被害を受けた十津川村の村長として災害復旧の陣頭指揮を執る。現在、紀伊半島大水害からの復興計画を策定し、村の復興に向けて対応中。



しぶや としひこ
渋谷 俊彦 鹿児島県出水市長

鹿児島県出水市生まれ
昭和43年 4月～同47年12月 代議士秘書
昭和47年12月～同49年 3月 自由民主党東京都連事務局長職員及び代議士秘書
昭和57年11月～平成7年 3月 旧出水市議会議員 平成11年 6月19日～同18年3月12日 旧出水市長
平成18年 4月23日～ 出水市長

平成9年出水市針原地区で発生した大規模な土石流災害では、21人の尊い命が奪われ、負傷者13人、家屋の流失・全壊29棟という出水市始まって以来の大災害を市長として経験した。
市では、市民の生命と財産を守り、安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを目指し、土砂災害防止対策はもとより、情報伝達・収集・避難体制等などの各種防災体制の確立、市民の防災知識の普及や防災意識の高揚を図る啓発活動、災害時に迅速に活動できる自主防災組織の育成・強化、災害時要援護者の安全確保などの防災体制の充実に取り組んでいる。



じとうその たかし
地頭蘭 隆 鹿児島大学農学部教授 鹿児島大学地域防災教育研究センター調査研究部門長(兼任)

鹿児島県生まれ
昭和56年 鹿児島大学工学部助手 昭和58年 鹿児島大学農学部助手
平成3年 鹿児島大学農学部助教授 平成19年 鹿児島大学農学部准教授
平成24年 鹿児島大学地域防災教育研究センター調査研究部門長 平成25年 鹿児島大学農学部教授

平成5年鹿児島豪雨災害、平成9年出水市針原川土石流災害、平成23年霧島新燃岳噴火災害、平成24年九州北部豪雨災害など、30年以上にわたり土砂災害に関する研究に取り組んでいる。また、国土交通省九州地方整備局緊急災害対策派遣ドクター、鹿児島県土砂災害対策アドバイザーとして、土砂災害発生時の緊急調査、警戒避難対応、応急対策などに携わっている。現在、近年増加している深層崩壊の危険箇所・規模・発生時期の予測と対策の確立を目指した国土交通省の「大規模崩壊等の異常土砂流出に関する技術開発研究」の(社)砂防学会代表者として深層崩壊の予測に関する技術開発研究を推進している。



ふなはら ゆきのぶ
船原 幸信 熊本県土木部長

昭和52年 熊本県採用
平成24年 熊本県土木部長

平成19年7月梅雨前線豪雨による土砂災害で、国道265号が大規模に被災した際は、全面通行止め解除のための緊急対応を経験した。
現在は、昨年7月の九州北部豪雨に伴い阿蘇地域で多発した土砂災害への対策事業をはじめとする様々な事業や課題に対して、創造的な復旧・復興となるように取り組んでいる。



うえだ たけし
植田 剛史 国土交通省九州地方整備局河川部長

奈良県生まれ
昭和59年4月 建設省入省
平成23年7月 九州地方整備局 河川部長

平成19年3月 能登半島地震による土砂災害では、石川県土木部長として土砂崩れや斜面崩壊など64箇所の緊急対応を経験した。
現在は、昨年7月の梅雨前線に伴う豪雨により、未曾有の被害が襲った九州各地域の早期復旧に向けた対応を実施している。



きたその よしと
北園 芳人 熊本大学大学院自然科学研究科教授

鹿児島県生まれ
昭和50年4月 熊本大学 助手
平成14年4月 熊本大学 教授

平成15年7月の水俣市土石流災害では、土石流災害検討委員会委員長として土石流の発生メカニズムの解明や災害復旧計画を検討した。平成24年7月の九州北部豪雨災害では、TEC DOCTORとして国道57号線滝室坂の災害復旧に携わると共に、熊本県の「阿蘇地域土砂災害対策検討委員会」の委員長として阿蘇地域の土砂災害対策に携わっている。